

# まごころだより

2020年 10月号

先日、幼い子供を連れての方が“まごころ”に見学に来られました。仕事をしたいと考えているが子供連れでもいいのか、もし良い場合はどのようにしたらいいのか色々教えて欲しいと尋ねられました。その意向を受けて、先ず“まごころ”がどのような施設かからお話を始めました。

富山型デイサービスの特徴は高齢者も障がい者も子供も同じ所で共に過ごせる場所を提供していること。会話を重視しており、高齢者の声に耳を傾けて要望に応えるようにしていること。いい人生であったと感じてもらいたいこと。他人同士が同じ場所、同じ時間を過ごすことで会話が増え明るくなって欲しいと願っていることなど他にも“まごころ”のモットーとしてのお話をさせていただきました。

昔は祖父や祖母が若い夫婦の代わりに子守をしていたこともあったが、時代の流れで様子が変わり寂しい思いをされていた方が、子供と一緒にその子達を孫、ひ孫のように慈しみ、その表情はとても優しく明るいことなど、家族のように接することで元気を出してもらえるように心がけていますとお話しました。

その親御さんは“まごころ”がどんなところなのか、世話になるとしても他の職員さんに迷惑をかけるのではないかととても心配されているようで、なかなか決断できないように見受けられました。そこで、ご自身や子供さんのために、そして“まごころ”を分かってもらいたい思いを込めて、納得するまで何度でも遊びにきてもらうわけにいかないかと提案しました。そんなことできるのかと驚いておられましたが、私たちが職員として迎えたいのだと伝えました。

その親御さんは介護の経験があったが、対象者の介護度が高い人達で話し掛けても会話にならなかった方がほとんどだったと言っておられました。入浴介助や食事介助、トイレ介助の最中はどうしても言葉少なになっていたのでコミュニケーションが上手く出来るか心配だとも言われていました。

そんな心配が理解できたので、私達にしても初めての事や以外な事を感じさせられる日々で、同じことの繰り返しではない中で沢山の事を学ばせてもらっている。始めからうまくいかないのは当たり前のことですとお伝えしました。

こんな話をどのように受け止めてもらえたか分かりませんが、仕事がしたい気持ちと幼子を心配する気持ちのどちらも受け入れたいと伝えかけたのです。母親が幼い子どもを目の届くところに置いて働く場所がとても少ないのが今の社会の現状だと感じました。是非良いお返事をいただけるよう願っています。

